

## ◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。  
状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

### 1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】(<https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/>)

10月10日(土)～12月13日(日)

愛知県陶磁美術館特別展／愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展：

YAYOI・モダンデザイン ―ニッポンの美、ここに始まる―

日本列島では、「縄文」の次に「弥生」の文化が成立しました。弥生の文化は、縄文とは対照的に機能性や普遍性を志向し、プロダクトの形や紋様は端正な造形をとることに特徴があります。こうした造形は、日本の伝統的な美の源流になると同時に、現在の私たちにとってもモダンと感じられるものとなっています。本展では、弥生時代の土器、石器、木器、骨角器、金属器の、かたち、色彩、絵画・紋様に焦点あて、そのデザインや美を紹介し、日本列島の特に西半部で、近年の発掘調査によって出土した代表的な遺物が一堂に集まる貴重な機会となります。本展を通じて、日本の美と文化を探る一助となることを願っています。なお、本展は愛知県が新たに設置する遺跡博物館「あいち朝日遺跡ミュージアム」のオープンと関連して開催するものです(11月22日開館、清須市)。



### 2. 多治見市文化財保護センター【岐阜・多治見】

(<https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/kikakuten/kikakuten.htm>)

8月3日(月)～12月25日(金)

収蔵品展： やきもの入門―多治見の古代中世編―  
多治見市は古代からやきものの産地として知られています。古くは八世紀の須恵器から始まり、灰釉陶器や山茶碗などの窯が市内に点在し、広く国内に流通していました。今回の展示では須恵器から桃山陶に至るまでの多治見の収蔵品を展示し、ご紹介したいと思います。



### 3. 滋賀県陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】(<https://www.sccp.jp/exhibitions/12381/>)

10月3日(土)～12月13日(日)

特別展： 奇跡の土―信楽焼をめぐる三つの景色

中世の時代から始まる「日本六古窯」の一つとして知られる信楽焼。古琵琶湖層群が育んだ信楽の土からつくられた焼締陶器は、趣ある土肌、そして火色(スカーレット)や自然釉など唯一無二の景色が最大の魅力です。それは<奇跡の土>といわれる信楽の土にしか出せない<奇跡の景色>なのです。信楽焼の土と景色は日本の現代作家たちに常に刺激を与え、また海外においても注目されてきました。信楽焼を様々な角度からフォーカスしてきた陶芸の森が、「日本六古窯と信楽焼の景色」、「信楽焼とアメリカ陶芸」、「信楽・焼締めの今」という三つの視点から、その魅力を見つめ直します。